

平成 27年度
第6号

耕人

『耕人塾』
塾長木村民男
平成 27年 10月 17日(土)

「日本人ノーベル賞受賞者二人に共通すること」

10月5日に北里大学特別名誉教授の大村智さんがノーベル医学・生理学賞、6日に東京大学宇宙線研究所長の梶田隆章さんがノーベル物理学賞を受賞し、日本のノーベル賞受賞者は24人になりました。今回受賞されたお二人の経歴やインタビューでのお話から、その人間性と共通するところを探ってみたいと思います。

- 大村智さん（80歳）山梨県韮崎市生まれ、山梨大卒業後高校教諭、東京大学で薬学博士、東京理科大学で理学博士取得、北里大学教授、文化功労者、スキーで国体出場
 - ・受賞理由：寄生虫による感染症に効く「イベルメクチン」などの開発で、毎年数億人を苦しめる熱帯感染症と戦う新たな手段を人類に与え、計り知れない恩恵をもたらした。
 - ・「微生物のすごい能力を何とか引き出そうとしてきた。何か一つでも人のためになることができないか、いつも考えてきた」
 - ・「微生物の力を借りているだけ。私が賞をもらっていいものか」声を張り上げず、謙虚な人柄を感じさせる静かな語り口。「微生物が・・・」「先輩たちが」と何度も感謝を表した。
 - ・「人のまねをしたら、それを超えることはできない」「自分は人の2倍も3倍も失敗している。失敗を繰り返してもやり遂げなさい」と後に続く人たちにエールを送った。
- 梶田隆章さん（56歳）埼玉県生まれ、埼玉大学卒、東京大学大学院で小柴昌俊氏に師事、カミオカンデ実験に参加、国際会議で「ニュートリノ振動の発見」を発表、特技弓道
 - ・受賞理由：地球の大気で生まれる素粒子ニュートリノを調べ、太陽から飛来するニュートリノの振動を発見し、質量を持つことが示された。宇宙の新たな発見につながる。
 - ・「私の名前を出してもらったが、スーパーカミオカンデやカミオカンデの研究グループのメンバーも認められたと思っている」
 - ・「1人でできるものではない。100人を超えるチームが一つの目標に向かう。受賞はその結果」「幼少期は、静かで、背も小さくて目立たなかった。カッコいいものは持ち合わせていないがきちんとやってきてよかった」
 - ・同級生の言葉「控えめで謙虚」「いちずで、一つのことにかけてみるタイプ」

お二人の人柄は、人のためにという強い意志と感謝の気持ちを忘れない謙虚さがにじみ出ています。本当に偉大な人とは、高い志とたゆまぬ努力、謙虚さと感謝、やり遂げる情熱と忍耐力のある人だと思います。

「ゴミ拾いの輪広がる」

本年度の『耕人塾』テーマは「世界に誇れる石巻地域にしよう」です。実践事項を「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」とし、前半は班ごとの取り組みをしてきました。その成果と反省を生かし、10/3(土)7:30～8:45 石巻駅周辺のゴミ拾いを行いました。塾生14名、指導補助員4名、指導委員11名、運営委員2名、市教委1名、石巻専修大学1名、好文館高校8名、蛇田中2名、計43名の参加でした。市民の方や交番のおまわりさんなど多くお方々から感謝と激励の言葉をいただきました。耕人塾の取り組みが徐々に浸透しつつありますね。10/10(土)7:30～矢本駅前周辺ゴミ拾い参加20名、10/17(土)7:30～女川駅周辺ゴミ拾いの参加は？名でした。